

# 略語はこうして作られる

「略語」の使用は“**時間**”とエネルギーとスペースの節約のため・・・（だけか？）

オオタ サトシ  
太田 聡  
人文学部

第26回「時間学カフェ」@総合研究棟3Fフォーラムスペース

2022年6月22日

語(word)の研究 = 形態論  
(morphology)

- Morphology

(morpho- (形) + -logy (...学) )

→ 屈折(inflexion): 動詞の活用(conjugation)

e.g. play – plays – played – playing

名詞、代名詞、形容詞などの語形変化(declension)

e.g. boy – boys, he – his – him, big – bigger – biggest

→ 語形成(word-formation):

新語形成(coinage), 派生(derivation), 複合(compounding),

混成(blending), 省略／短縮(abbreviation (truncation / clipping /

shortening)), 転換(conversion), 逆成(back-formation),

借用(borrowing)など

(注) 「語形成」を「語彙素(lexeme)形成」と呼ぶ研究者もいる。

# 語形成の実例

- 新語形成：新しい製品名などに見られる手

e.g. Kleenex, Kodak, Xerox

cf. 富士通ゼネラルの「ノクリア」 (nocria: aircon) ←

ならば、語の常識をひっくり返すような新しい語は「オグニス」か？

(ognis: singo (新語) ) ←

- 派生：基体(base)に接頭辞や接尾辞を付加する。

e.g. real → unreal → unreality (現実 → 非現実 → 非現実性)

- 複合：独立して使える語を組み合わせて新たな一語にする（循環的形成が可能）。

e.g. black + board → blackboard, ~ + eraser → blackboard eraser, ~ + maker  
→ blackboard eraser maker, ...

- 混成：複合と違って、元の語の一部を合成する。

e.g. breakfast + lunch → brunch, 平井 + 黒川 → 平川

# Cont.

- 省略／短縮： 様々なパターンがあるが、より詳しくは後ほど述べる。  
e.g. パーソナル-コンピューター → パソコン  
Massachusetts Institute of Technology → MIT
- 転換： ゼロ派生(zero derivation)とも呼ばれる。  
e.g. 名詞のGoogle → 動詞のgoogle 「ググる」
- 逆成： 接辞の付加ではなく、削除を行う。  
e.g. editor → edit (act → actorなどのanalogy)
- 借用： 日本語には漢語や外来語といった多くの借用語(loanword)がある。

## 屈折と語形成の違い

- 屈折は、文法的なことを表すために語の形を変えているだけで、新しい語を生み出している訳ではない。

∴辞書では屈折変化した形は見出し語にならない。

e.g. play

—**動**(~s /-z/; ~ed /-d/; ~ing)



- 例えば、real → realityのような派生語の場合には、それを覚えた人・使った人は「新しい語を知った／使った」と感じるはずだし、辞書でも別の見出し語となる。

※語形成 = 新たな語の形成・獲得

省略／短縮によつてできた略語は、はたして元の語とは別の語と言えるのか？

- 答えはおそらく（65%～75%くらい：likely～presumably）“Yes.”

例えば、(1a)と(1b)にそれほど大きな違いはないだろう。

- (1) a. キムタクの出ている日産のCM  
b. 木村拓哉の出ている日産のCM

▶ 「キムタク」型略称は音韻的に作られており、（山口大学 → 山大、自由民主党 → 自民党／自民のように）漢字を1文字ずつ取り出している訳ではない——つまり、「木拓」ではない——ことに注意。

# が、やはり、略語と元の語（句）は何かが違う

例えば、次のような例だとどうだろう？

- (2) a. 私はカラオケに行くのが好きだ。  
b. ??私は空のオーケストラに行くのが好きだ。

- (3) a. このエアコンのリモコンの電池は単3です。  
b. ??このエアーコンディショナーのリモートコントローラーの乾電池は単位電池タイプ  
で3番目の大きさです。

●サンドウィッチマンの富澤の「ちょっと何言ってるか分からない」が聞こえてきそう。

また、**隠語・業界用語**などから分かるように、**元語≠略語**のはずだ。

e.g. 警察≠サツ（「警察」-倒置→「さつけい」-省略→「サツ」）

（⇒藤沢健太先生が「サツを呼べ」など発言されることはないでしょう。）

# 複合語の省略パターン

• 日本語の（特に外来語の）複合語、および句や文の省略には明確・優勢な省略の型式(schema / formula)がある。すなわち、前半要素と後半要素から2モーラ（=2拍）ずつを取り出す。

※「1モーラ(one mora)」は基本的に仮名1文字に相当する長さの単位（ただし、拗音は2文字で1モーラ）

- (4) a. ワード-プロセッサ → ワープロ  
パワー-ステアリング → パワステ  
ワン-チャンス → ワンチャン  
コミュニケーション障害 → コミュ障 / 症 [ネットスラング]  
味付けポン酢 → 味ぽん
- b. 地味な結婚式 → ジミこん
- c. あけましておめでとうございます → あけおめ
- etc.

例外：ベース-アップ → ベア、レモン-スカッシュ → レスカ、スノーボード → スノボ（一）、カンニング-ペーパー → カンペ、レベルが違う → レベチ、etc.

（英語のscience fiction → sci-fi, situation comedy → sitcomなどの省略はあまり面白くないので、ここでは論じません。）

# 日本語は「**2モーラで1フット**」を形成

- 日本語は「2モーラ」で韻律上の1つの単位（塊）を形成する。

※「フット(foot)」とはリズム上の基本単位 → 後ほど改めて紹介する。

よって、日本語は、2拍、4拍、8拍といった偶数のまとまりを発話において好む。表面的には奇数拍でも、休止を入れれば偶数拍になっている。（⇒より詳しくは窪園・太田(1998)を参照）

夏草や $\gamma\gamma\gamma$  兵どもが $\gamma$  夢の跡 $\gamma\gamma\gamma$  🙌 5-7-5は8-8-8

ちなみに、日本人は3拍子のワルツの演奏・踊りが苦手であると言われている。

# 非複合語の省略はどうか？

- 省略形の長さはバラバラ

(5) デモンストレーション → デモ (2モーラ)

テレビジョン → テレビ (3モーラ)

イラストレーション → イラスト (4モーラ)

▶ 結論的なことを先に述べると、日本語において、単一語を省略する場合、2モーラ以上4モーラ以下の長さの形が現れ、1モーラや5モーラの形は現れない。略語は短ければ短いほどよいだろうが、1モーラしかなくては何を言いたいのかが推測しづらい。5モーラもあっては、略した意味がない。よって、5モーラ未満の語は略さない。例えば「バナナ → \*バナ」（が、バナナ-ジュース → バナジューはあり）。ただし、「ポイント → ポ」、「ページ → ペ」などの特殊例はある。） \*は「非文法的」の意

cf. 「了解しました。」 → SNSで「り」

「ありがとうございます。」 → 「\*あ」

「おめでとうございます。」 → 「\*お」

# 非複合語 の略語形 成に関する 代表的 先行研究1

---

窪菌 (2004) : < 擬似複合語説 > 漢語複合語の省略は「携帯電話→携帯」のように前半を取り出すことが多い。これと同じように非複合語の省略も行われるのではないか。

---

イラストレーション→イラスト（「～レーション」といった語は多いので、日本人はそこを複合語の後半要素のように感じているはずだ。）

---

（問題点）では、例えば、なぜ「テレビジョン」は「テレビ」と略すのか？ 日本人が「～ジョン」を後半要素と感ずるということはあるまい（少し賢い人ならば、むしろ「ビジョン」が後半と捉えるはずだ）。

# 先行研究2

---

- 太田 (2014) : 競争相手がなくなるまで長くする。

「テ」	→	「テレ」	→	「テレビ」 <b>上がり!</b>
テクノロジーなど		テレパシー		
候補語多数		テレグラム		
		テレスコープ		
		など		

(問題点) 語彙の多い人は長めの略語を作り、語彙の少ない人は短めの略語を作ると予測してしまう。例えば、「テレ」と聞いて「テレビジョン」しか思い浮かべない人は、「テレビジョン」の略として「テレ」を使うが、「テレポーテーション」なども思い浮かべる人は「テレビ」と言う、というような馬鹿げた予測をしてしまう。

# 先行研究3

• Labrune (2002), 太田 (2021) : アクセントの位置よりも前を残す。

▶ Accent Constraint/Criterion Theoryの意味で以下では「AC (説)」と略す。

※日本語の アクセントの位置 (ピッチの落ちる箇所) は ㄩ で表す。

イラストレㄩーション → イラスト

アナウㄩンサー → アナ

コンビㄩーション → コンビ

ヘリㄩㄥプター → ヘリ

インフルㄩㄥザ → インフル

アプリㄩーション → アプリ

オペㄩーション → オペ

パンフㄩㄥット → パンフ

(パㄩㄥフレットもあり)

最近流行りの「サブスク」も「『サブスクリㄩㄥション』だから」と説明できる。

# 先行研究4

---

- Ito (1990) の Minimality Requirements (「最小性要件」：以下MRと略す) :
  - minimal stem requirement: Min (STEM) = 2 moras (= 1 foot)
  - minimal word requirement: Min(WORD) > 1 syllable  
(「最小語」は2音節以上でなければならない。)

※stemは「語幹」と訳され、語の中心的な部分のこと。

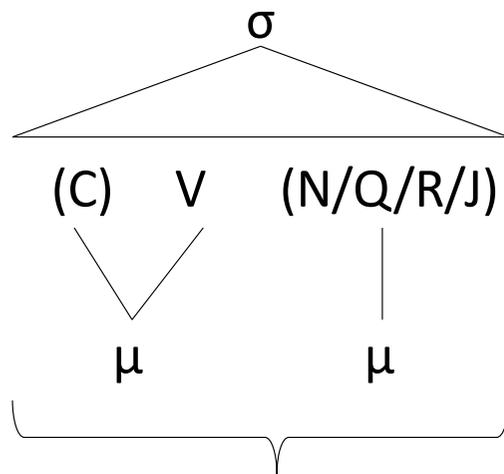
(注) 日本語には「胃」や「血」のような1モーラ語がかなりあるが、実際の発話においては、それらの語(幹)は2モーラに変化することが多い。

関西弁：「胃が痛い」→「**イー**(が) 痛い」

幼児語：「血が出た」→「**チガ**がでた」

# やや脱線して、日本語の音節構造のはなし

## • 1音節2モーラの構造



イカ vs インカ

きく vs キック

かど vs カード

かぎ vs かいぎ

σ = syllable, 音節

μ = モーラ

C = consonant, 子音

V = vowel, 母音

N = 撥音「ん」

Q = 促音「っ」

R = 長音

J = 二重母音の第2要素

特殊モーラ

独立性なし

/aJ, oJ, uJ/という3種の二重母音が日本語にもある。

2モーラ2音節語 vs 3モーラ2音節語

# 特殊モーラは3モーラ略語を生みやすい

複合語の後半語の第2要素が特殊モーラであると、4モーラ略語ではなく、3モーラ略語が生じやすい。

e.g. スクリーン-シヨット → スクシヨ ...syoQ

フリー-マーケット → フリマ ...maR

プリペイド-カード → プリカ ...kaR

パワー-ポイント → パワポ ...poJ

エコ-ポイント → エコポ ...poJ } /oJ/が二重母音である証拠

~~~~~

「ン/N/」は残りやすい（例えば、「サラリーマン金融」は「サラキン」と略され、「サラキ」とはならない）。しかし、例えば、「マイナンバーカード予約・申込を行い・・・ポイントがもらえる」→「マイナポイントもらえる」では消えている。

同じ資格を持つものは入れ替え可能(→ paradigmatic relation)

- 例えば、品詞（等）が同じならば、文中の同じ場所に現れる。

This is a pen.



{That/\*Very/\*With...}

JがN, R, Qと入れ替わるのは音節構造で同じスロットに入る証拠！

- < 言い間違い例：間違えたとしてもやはり日本語だ！ cf. 田総 (1982) >

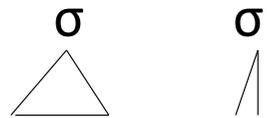
経団連会長/keRdaNreNkaJtyoR/ → ケーダンレンカン<sub>2</sub>チヨ  
/keRdaNreNkaNtyoR/

モーターバイク/moRtaRbaJku/ → モ<sub>1</sub>イターバイク  
/moJtaRbaJku/

- < 北関東の方言例 >  
歩いて/aruJte/ → ある<sub>2</sub>て/aruQte/

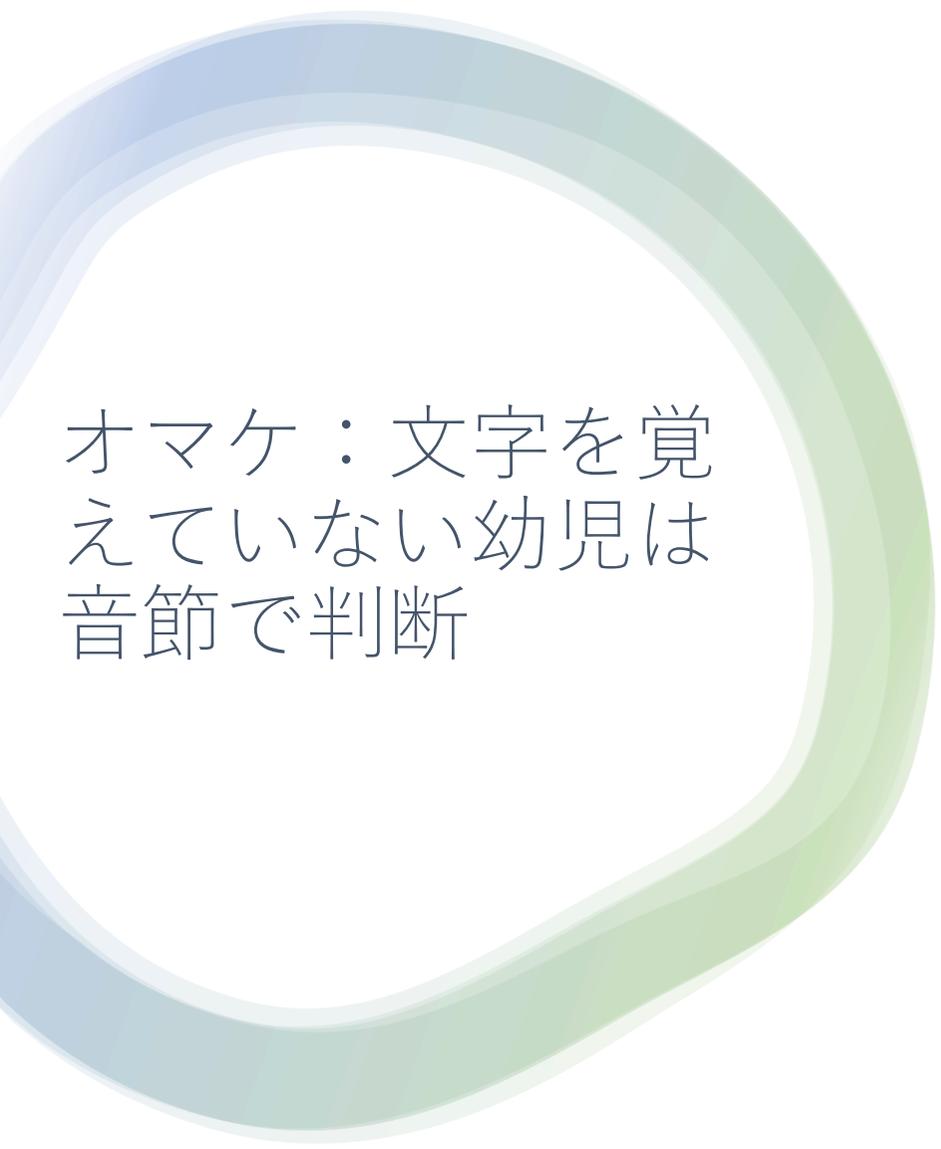
# MRで説明できる略語

ロケーション → \*ロ (1モーラ・1音節)、ロケ  
ローテーション → \*ロー (2モーラ・1音節)、ローテ  
マイクロフォン → \*マイ (2モーラ・1音節)、マイク  
ダイヤモンド → \*ダイ (2モーラ・1音節)、ダイヤ



つまり、 $[[da]_{\text{Stem}}[ya]_{\text{Suffix}}]_{\text{MinWord}}$

ACだけだと、「ロ」や「ロー」を予測するので、MRも必要。  
しかし、「マイク」や「ダイヤ」の予測にはMRが不要。



オマケ：文字を覚えていない幼児は音節で判断

- 愚息<sup>(太田真理)</sup>が2歳の終わり頃に、風呂でチャプチャプしながら尋ねてみた：

父：「父さんは『サ・ト・シ』だから3つ。じゃー、『真理』は？」

息子：「『シン・リ』、ふたつ」

∴音節は普遍的(**universal**)な単位だが、モーラは個別言語的な単位と言えよう。



# 無意味語・臨時語(Nonsense word / Nonce word)で確認

山口大学と山口県立大学の1,2年生（語形成の法則などは知らない学生たち）約100人に、例えば「ペラスミンタ」というような無意味語を10個見せ、そのアクセントの位置を考えてもらった。その上で、それらの語を略すとするとどうなるかを答えてもらった。

結果は、「ペラスミンタ」とした人は、「ペラス」という略語を選ぶという回答が圧倒的多数であった。

興味深いことに、答えが半々に割れるのは、「シャイコルト /syaJkoruto/」のように、二重母音を含む例であった。方言・個人によって、二重母音の捉え方・感じ方が異なる（つまり、半数の人は、1音節の/syaJ/ではなく、2音節の/sya-i/と捉える）と推察できる。

詳しくは太田 (2021)を参照。

では、皆さんも試してみましよう。

---

AC説が妥当であれば、実在語だけでなく、無意味語においても（いや、むしろ無意味語の方が、暗記ではなく、規則的に処理するので、）期待通りの結果が出るはず。

---

以下のような外来語がもしあったとすると、その省略形はどうなる？

---

パシコンデール(pashikondale) →

---

オケマジトル(okemazitol) →

---

ベナトーマ(benatorma) →

では、皆さんも試してみましよう。

---

AC説が妥当であれば、実在語だけでなく、無意味語においても（いや、むしろ無意味語の方が、暗記ではなく、規則的に処理するので、）期待通りの結果が出るはず。

---

以下のような外来語がもしあったとすると、その省略形はどうなる？

---

パシコンデール(pashikondale) → パシコン

---

オケマジトル(okemazitol) → オケマ

---

ベナトーマ(benatorma) → ベナ

# ACでは（一見）うまく扱えないもの（の一部）

- デモンストレーションの略はなぜデモ？

デモンストレーション → デモンスト → \*デ、デモ

AC

AC, MR

- レクリエーション(recreation)の略はなぜレクリではなくレク？

英語の綴りを意識してなかったとき／人は「レクレーション」と言っていたはず。だから、「レク」となっても不思議ではない。

- テレビジョンの略はなぜテレではなくテレビ？

radiotelegraphy → radio（ラジオ）の影響が考えられる（和田学氏とのp.c.）。

- アスペルガーの略はなぜアスではなくアスペ？

「アス」はassを連想するからか？（→ 皆が英語をサッと思い浮かべる訳ではないだろうから、理由はよく分からない。）

## アクセント（核）より前を残すのはなぜ？

<答え>

略語はイントロクイズのようなもの。

※アクセントのある箇所は、楽曲の「サビ」のようなもの。つまり、一番重要な箇所。サビまで聞かせては、クイズの意味がない。

しかし、「イントロ → Aメロ → Bメロ → サビ」というような展開だと、サビは最後の部分になってしまうので、もう少し話を単純化させよう。例えば、A → B → A'という構成で、Bがサビになっている場合、Aの部分だけを聞けば、残りのB+A'の部分も想起され、曲名を当てることができる、というようなことと略語の使用・理解は似ているだろう。

違う喩えをすれば、「起承転結」の「起」や「承」だけを聞いて、「起承転結」というストーリー全体を思い起こすようなもの。

「パンフ」で止めるからよいのであって、「パンフレッ(ッ)」まで言われては推測し甲斐がない。

「とーさん、クイズだすよ。ポとスとトのつくものなんだ？」ではダメ。

# 略語とフットの関係

- 「フット／韻脚(**foot**)」とはリズム上の単位のこと、詩では「長短／短長（短長短などもあり?）」や「強弱／弱強（あるいは強弱弱や弱弱強）」の組み合わせで1つのフットを作る。

e.g. Now my | hard day's | work is | done, △ 強弱四歩格(trochaic tetrameter)  
I'm as | happy | as the | best. △ （△は欠節を表す。）

To be, | or not | to be, | that is | the question. 弱強五歩格(iambic pentameter)

## Cont.

- 人は、リズムを足で刻む（リズムを感じると足が動く）  
→ 「足で叩く／足を叩く」から、“foot”という用語が生まれた。

cf. Paul McCartneyの足の動き **動画 Get Back (RTC).MTS**

• しかし、日本語は強弱／弱強の組み合わせで1つのフットを構成するような言語ではないので、単純に「2モーラの塊を1つのフット」とし、このフットが複合語の略語で多用される。すなわち、「スタジアム-ジャンパー → スタジャン」のように、前半と後半から1フットずつを取り出して略語とする。

## Cont.

- 英語の略語を見てみよう。

例えば、長い単語（文字数でいえば7文字以上の語が多いと言われている）は、**pamphlet** → **pamph**, **Professor** → **Prof.**, **gasoline** → **gas**のように、最初の**1音節**（ただし、軽音節(light syl.)ではなく、重音節(heavy syl.)）を略語として使うことがよくある。

そして、それ以外のパターンとしては、**1フット分の長さのものを略語として使うことが多い。**

e.g. **examination** → **exam**<i>**<i>**

**information** → **info**<f>

**hélicopter** → **cópter**（もしくは**héli**：無線操縦ヘリを指すことが多い）

cf. **helico-**（螺旋の） **-pter**（翼） / **Pteranodon**（プテラノドン（翼竜））

# 頭文字から構成される略語について

- 頭文字（イニシャル）を使った2種類の略語
  1. 頭字語(acronym)：頭文字を続けて一つの語のように読むもの  
e.g. NATO < *North Atlantic Treaty Organization*  
/neitou/（「ナトー」ではnatto（納豆）になる）
  2. 頭文字略語(initialism)：1文字ずつ読むもの  
e.g. NHK「エヌエイチケー（エネーチケー）」

# AcronymとInitialismの区別の基準は？

Initialismの例は大体3文字までの例が多く、acronymは4文字以上の例が多い。

Initialism: AM, PM, BC, AD, PC, MIT, USA, BBC, WHO, FBI, CIA, PTA, FEN, CLS (Chicago Linguistic Society), ...

Acronym: OPEC, AIDS, STEM (scanning transmission electron microscopy), SARS, UNESCO, NELS (North East Linguistic Society), W<sub>ij</sub>CCFL (The West Coast Conference on Formal Linguistics), ...

▶ Acronymの語末のSは複数形の-sのように発音される。つまり、synndromeやsocietyの意味なのに、/z/と読まれる。

▶ UFOは、日本語では「ユーフォー」だが、英語では/ju:efou/となることが多い。

▶ 4文字以上であっても、子音文字が続きすぎて単語読みできないもの (e.g. LGBT(Q), UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)) や、initialismとして使われる2つを組み合わせただけ、4文字になってもinitialismのままであるものもある (e.g. UCLA)。

# Initialismの特性

- 日英語とも、最後の文字に（主な）アクセントが与えられる。

**BBC, MIT, PTA**などを読み上げる場合、英語では1番目の文字に第2強勢、3番目の文字に第1強勢が与えられ、日本語では3番目の文字でピッチが急降下する。つまり、卓立を丸の大きさを表せば、

英語は○○○、日本語も○○○となり、パターンが類似している。

**PC**のように2文字の場合にも、後ろに（より強い）アクセントが与えられる（○○型）という意味で、日英語に共通性がある。

※日本語の語アクセントには、「合計4モーラで、語末に短い音節が2つ続くときには、無アクセント（平板型）になる」という規則性がある。cf. アマゾン(zōN) vs. アマゾネ(zone)。よって、例えばSF「エスエフ(efu)」は、無アクセント（平板型）になる。

## Cont.

- 日本語のInitialismは、単なる（臨時の）省略とは違う（→ Initialism形成が語形成の一種であることが窺える）。

例えば、「藤井聡太」という名前をはっきり出すのを避けて、「**その棋士は（イニシャルで言えば）SFだ**」と言う場合、それはその時だけの臨時的省略である（→決して辞書に載る例にはならない）。

一方、「僕は**SF**が好きだ」という具合に使われる（空想科学小説の意味の）**SF**は確立したinitialismである。

前者と後者では、アクセントが異なることに注意されたい！

前者は「エスエフ」、後者は「エスエフ」となる。この場合、（前ページで触れたように、）無アクセントになる方が、アクセント規則に従っており、語彙化されている例と言える。

# (日) 英語の愛称語について

- 英語のいわゆるニックネームの主な作り方には、（長い語の省略の場合と同様に、）第1音節を取り出すものと、アクセント基準で作り出すものの二通りがある。

e.g. Abraham → Abe, Michael → Mike, Barbara → Barb, ...

Ábigàil → Gail, Àlexánder → Alec/Alex, Sander

（なお、Patricia → Patty, Rebecca → Beckyのように、指小接(diminutive)の付加もよく行われる。）

<Abi><gail△>, <Alex(k)><(z/s)ander>という具合に**フット**に分けられるので、ニックネームのおよそ半分はフットに基づいて作られていると言えよう。

ならば、「花子 → はな-ちゃん」、「聡 → さっ-ちゃん」のように「2モーラ 1 **フット**」を愛称の単位に用いる日本語と何らかの共通性があることになる。

## おまけ：DAI語（DAIGO + 言語）

- タレントのDAIGOの略語はacronym/initialismとは少し違う。

e.g. KMSS 興味津々  
KKDI 健康第一  
MKS 負ける気がしない  
KKTP 強行突破  
JSSK 上昇志向  
JNK じっちゃんの名に賭けて  
MM マジ無理  
DKB 大好物  
etc.

▶ Acronym/initialismは複合語の各語の最初の文字を取り出すが、DAI語は各漢字や各句の最初の文字を取り出している。

## スライド27の注

- 基本的に7文字以上の語が略語形成の候補になる (cf. <https://www.rokutanjuku.com/eitangosyouryakuru-ru>)としたが、doctor → doc などのように6文字以下の語を短縮した例もないわけではない。また、月名を書く場合には、4文字しかない月名であっても、June → Jun., July → Jul. のように頭から3文字を採って省略形とされる。
- advertisement → ad / advertのように、第1重音節を使った略語とはじめのフットを使った略語の両方のパターンを示す好例もある。
- mèmorándum → mémoは左のフットを採った例だと言える。
- examination → examiという例は、強弱格（フット）になっている-xamiという部分に、語頭の無強勢のe-を付加しているので、Selkirk 1980などが仮定した $\Sigma'$ （フットのシングルプライム形： $(\sigma'\sigma)_{\Sigma} \rightarrow (\sigma(\sigma'\sigma)_{\Sigma})_{\Sigma'}$ ）などを採用すべきかもしれないが、ここここでは単純に、iを削除した後の弱強格のexamだけを示した。
- Influenza → flu, omnibus → busのような語中、語末の1音節を残す略語については、ここでは考察対象としなかった。

# 参照文献

Ito, Junko (1990) Prosodic Minimality in Japanese. *CLS* 26(2), 213-239.

窪園晴夫 (2004) 「音韻構造から見た単純語と派生語の境界」 『文法と音声Ⅳ』 123-143. 東京：くろしお出版.

窪園晴夫・太田聡 (1998) 『音韻構造とアクセント』 東京：研究社.

Laburune, Laurence (2002) The Prosodic Structure of Simple Abbreviated Loanwords in Japanese: A Constraint-based Account. *Journal of the Phonetic Society of Japan* 6(1), 98-120.

太田聡 (2014) 「短縮語形成管見」 『異文化研究』 8, 63-80. 山口大学人文学部異文化交流研究施設.

太田聡 (2021) 「日本語の借用語の省略形に関する予備的研究」 『音韻研究』 24, 69-76. 東京：開拓社.

Selkirk, Elisabeth (1980) The Role of Prosodic Categories in English Word Stress. *Linguistic Inquiry* 11(3), 563-605.

田総武光 (1982) 『言葉のとちりー実例分析』 米子：今井書店.

# Thank you.

コメント等は以下へどうぞ。  
ohtaアットyamaguchi-u.ac.jp  
(アットは@に変更を)